



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
10/4 (月)	+ 500	▲ 36,800	▲ 36,300	税・保険揚げ 国庫短期証券 発行・償還(3M)	補完供給 + 200		米: 製造業受注 (8月)
10/5 (火)	+ 1,000	▲ 2,000	▲ 1,000				日: 東京CPI (9月) 米: 貿易収支 (8月) 米: ISM非製造業総合景況指数 (9月) 欧: ユーロ圏 PPI (8月)
10/6 (水)	トン	▲ 26,000	▲ 26,000	国債発行(10年)			米: ADP雇用統計 (9月) 欧: ユーロ圏小売売上高 (8月)
10/7 (木)	トン	+ 1,000	+ 1,000				日: 日銀支店長会議 (テレビ会議形式)、 日銀地域経済報告 (さくらレポート、10月) 日: 日銀営業毎旬報告 (9月30日現在) 米: 新規失業保険申請件数 (2日終了週)
10/8 (金)	トン	▲ 4,000	▲ 4,000				日: 貿易収支 (8月) 日: 国際収支 (8月) 米: 雇用統計 (9月) 米: 卸売在庫 (8月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初542兆5,100億円から始まった。その後は国債発行を主因に同残高は減少し、539兆7,900億円を越えた。

無担保コールON物同加重平均金利は27~29日までは $\Delta 0.025\% \sim \Delta 0.024\%$ で推移した。半期末となる30日は調達を控える先が見られたため、 $\Delta 0.049\%$ まで低下したものの、週末1日は地銀業態を中心に調達ニーズが強まり、 $\Delta 0.018\%$ に上昇した。

ターム物は、10月スタートの1W~1M物を中心に、主に $\Delta 0.020\% \sim \Delta 0.001\%$ の水準で出が見られた。

日本銀行が1日に発表した9月の全国企業短期観測調査 (短観) において、大企業製造業の景況感を示す業況判断指数 (DI)はプラス18となり、前回6月調査から4ポイント上回り、5四半期連続の改善となった。

来週の主な予定は、国内では、7日に日銀地域経済報告 (さくらレポート、10月)、8日に貿易収支 (8月) の公表などがあり、

海外では、5日に米貿易収支 (8月)、8日に米雇用統計 (9月) の公表などが予定されている。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	$\Delta 0.080 \sim 0.001$
1M	$\Delta 0.050 \sim 0.020$
2M	$\Delta 0.020 \sim 0.050$
3M	$0.000 \sim 0.100$
6M	$0.000 \sim 0.130$

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	$\Delta 0.050 \sim 0.000$
CP 3M	$\Delta 0.070 \sim 0.000$

<レポ>

足許GC取引は週初 $\Delta 0.095\%$ 近辺の出会いから始まり、翌28日は短国買入れオペがオファーされたが $\Delta 0.080\%$ 台まで上昇する場面も見られた。9月末の受渡しとなる29日の取引は $\Delta 0.10\%$ 台から出会い始め、 $\Delta 0.12\%$ 台まで低下した。以降は10月の受渡しとなってレートは上昇し、短国3Mの入札日となった週末は $\Delta 0.070\%$ 台まで上昇して越えた。SC取引は2年409~428回債、5年137~148回債、10年333~363回債、20年163~177回債、30年69~71回債、40年9~14回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約 2兆600億円で、週間償還額 (約3兆5,000億円) 発行を下回った。発行市場は、期明けの発行再開となり、商社や石油業態等で大型の案件があったものの、週を通じて案件少なめで落ち着いた市場であった。また、新型コロナウイルス感染症の感染の拡大に伴う予防的な資金調達ニーズは昨年より後退したことで、例年通りの四半期末を意識した残高調整の動きから大幅な償還超となった。先週末の市場残高は24兆6,767億円であったが、9月30日時点では21兆2,916億円と減少した。発行レートは発行頻度や発行期間等で跛行性が見られ、 $\Delta 0.08\%$ 台後半~ 0% 近辺での出会いであった。

来週の週間償還額は、約950億円となっている。発行市場は、期明けの発行と5・10日発行が重なることから、相応の発行が見込まれる。発行レートは投資家の運用ニーズが引き続き強く、マイナスから 0% 近辺の出会いを予想する。

<TDB>

10月1日の3M1027回債(2022年1月11日償還)の入札は、最高落札利回り $\Delta 0.1271\%$ (前回債 $\Delta 0.1300\%$)、平均落札利回り $\Delta 0.1330\%$ (前回債 $\Delta 0.1383\%$)となった。来週は10月7日に6M、10月8日に3Mの入札がある。